

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870300852		
法人名	池田観光開発株式会社 A棟		
事業所名	グループホーム鶴沼の里(1)		
所在地	〒300-0012 土浦市神立東2丁目21-22		
自己評価作成日	令和1年7月31日	評価結果市町村受理日	令和元年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870300852-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和元年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①近くに鶴沼の大きな池があり、遊歩道を散歩し、自然と触れ合う事が出来る。②自立支援と明るく家庭的な介護③無農薬の吟味された食材。④自宅の延長のようなゆったりとした当たり前の生活。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四季の移り変わりが感じられる自然豊かな田園地帯の中に位置している。管理者、職員は「その人らしいあり方をめざす」という理念のもと、利用者一人ひとりの個性を尊重した支援をしており、起床や食事の時刻などは、利用者それぞれのペースに合わせたサービスを提供している。勤務年数の長い職員も多く、利用者並びに家族等との密接な関係が築かれている。職員同士何でも相談できる関係性となっており、優れたチームワークで業務を遂行している。食事の重要性を考え、献立作りから食材の買い出し、調理まで事業所職員が対応し、利用者の満足する食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰もが目に付く所に掲示して、スタッフ同志共有し、実践できるようにしている。	理念の一つである「その人らしいあり方めざす」を意識して、事業所のスケジュールに合わせるのではなく、利用者一人ひとりの時間帯で1日のスケジュールを決めている。職員は日常の支援の中で理念に沿った支援ができているか常に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の運動会に参加し、子供達の動きに喜んでいる。	本部主催のバーベキュー大会や花見に参加し、地域住民と交流しているほか、中学生の職場体験の受け入れを行ったり、小学校の運動会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の支援の方法等地域の人に向けては活かしきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等で市の担当者・等と協力関係を築くよう取り組んでいる。	委員からの提案、紹介でボランティアをイベント時に受け入れ、利用者の楽しみとなった。インフルエンザが流行するなどして昨年10月から今年の2月まで開催できず、年4回の開催にとどまっている。	年6回の運営推進会議の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度は介護相談員が来所され、入居者様の話を聞き内容を帰りに話して下さっている。	管理者は運営推進会議時や地域密着型サービス連絡会参加時に運営状況や空き情報を伝えている。毎月介護相談員が来所しており、利用者の要望や相談ごとを聴いてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、ご本人の事故防止の為、最小限のものをご家族と話し合い、記録し、経過によっては解除している。	運営規程、契約書に緊急やむを得ない場合を除き身体拘束その他利用者の行動を制限しない旨を明記している。身体拘束排除に関するマニュアルはあるが、職員研修を実施するまでには至っていない。	身体拘束等の適正化のための指針の整備、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の設置、身体拘束等の適正化のための研修の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の仕事の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やミーティング等で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社においてご家族と話し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方が来所された時等意見や要望も出して頂いている。	家族等の来訪時や電話連絡時に意見を聴くように努めている。家族等は管理者との関係が良いので、消耗品の購入に際して金額で困っていることや家庭の内情などを含めて色々な意見を言える環境になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、申し送りのノート」等月1度の主任会議等で意見交換をしている。	日常の支援の中で職員の気づきや意見があれば、皆で相談しあいながら直ぐに実行したり、カンファで検討して実行するなど、意見が言いやすくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	図べて本社。長く勤務している職員が沢山います。職員からの要望は難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等自分の休みの中で費用も自己負担で受講している。理解できない人もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に利用者様の生活歴の中で聞き取り、生活の中で安心して暮らせるように対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を不安にさせない様な信頼関係を築き、ご本人とご家族が安心して生活できるよう対応する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の困っている事にも耳を傾け納得のいくサービスを提供できるよう話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と同じ立場になり、生活できるよう居心地良い生活が送れるように努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所の際にホームでの生活等話し、ご家族の立場になって考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご家族が馴染みの方が紋々しやすい様訪問しやすい様、逆に来所されないご家族がいる事もある。	入居時のフェイスシートや家族等の話、日々の利用者との会話などから、これまでの馴染みの関係を把握し、関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で職員同志が話し合い、利用者様同士が楽しく過ごせるよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が終了しても、ホームに寄って下さる方や、電話をして下さる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中でご本人の思い等見つけ安心した生活ができるように努力している。利用者様の中で、行事等参加しないご家族がいて便り等もはやめにし近くになるとTELするが、1度も来てなくその方の気持ちになってケアしている。、	日々の会話や関わりの中から把握しているとともに、表出困難な利用者からは言葉や表情から汲み取り、月1回のカンファレンス時に職員間で話し合いながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の生活の中でご家族からの情報等スタッフ同士で共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で観察し、毎日の申し送りの中で利用者様の心身状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りの中での利用者様の変化等にも耳を傾け、安心した笑顔が見られるような計画書の作成をしている。ご利用者様の状況の変化等職員が共有し、ご利用者様に即した計画書に見直ししている。	利用者一人ひとりに担当職員がついて、2か月ごとにモニタリングを行い、介護計画を作成している。介護計画の見直しは基本1年で行っているが、状態に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況、介護記録、申し送り等で情報の共有、コミュニケーションをとり、努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望にそえるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の行事には納涼祭、敬老会、クリスマス会では、ボランティアさんの踊り、腹話等協力を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様等と話し合い、希望する病院への受診、又、家族がご本人を連れての家族受診も行っている。家族受診は1名のみであるが、利用者様の状況など受診ノートを作成し、ご家族に渡している。	週1回、協力医療機関の看護師が来所し健康管理をしている。利用者一人ひとりの受診ノートを作成して、事業所での様子を書き込み家族から医師に渡し、受診結果も医師から書いてもらうようにしている。	お
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの週1回の看護師来所時は気になること等聞いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご本人やご家族の要望等に耳を傾け、安心した治療を受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、ご家族に説明し、確認ながら対応している。	看取りを行わないことを「鶴沼の里における終末期に関する指針」に明記し、契約の際に説明をして、同意書を得ている。状況の変化に応じて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受け緊急時の対応等わかりやすい場所に貼って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により、避難訓練を受け、全職員が身に付けている。	夜間想定を含む訓練を年2回行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品は充分でない。避難訓練に近隣住民の協力を得るまでには至っていない。	災害に備えた備蓄品の整備並びに一覧表の作成を期待する。避難訓練に地域住民の参加を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ここのプライドを着ず付けない様失敗はとがめず、プライバシーを尊重し、努力を認める言葉をかけている。	利用者の尊厳に配慮した言葉かけに努めている。個人情報に関する同意書と肖像権に関する同意書を整備している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を重視し、ご本人を理解する様努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いするのではなく、ご本人がやる気の出るような言葉かけをする様に心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その日の気候、外出等によって、身だしなみに注意するようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き・食事中等もピーマン・トマト・ナス等庭でとれたことを説明すると嬉しそうに召し上がっている。献立は月ごとに職員が作成し、ユニットごとに買い物し、季節に沿った食事を出すよう心がけている。	各ユニットの職員が月ごとに交代で献立を考え、ユニットごとに買い出しをし職員が調理している。同じ献立でも、各ユニットごとの利用者にあった食材を使用しながら食事を提供している。外食や行事食を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分等その人に合った量や水分を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄の時刻等記録して排泄のパターンに合わせて失禁を最小限にする。排泄チェック表を作り、時間に合わせ、トイレ誘導し、自立に向けての支援をしている。	小まめな声かけ誘導で、リハビリパンツからパットを使用しながらの布パンツに改善した利用者がいる。昼間は、全員トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況をハイベンチェック表に記入し、3日目には排便が出る様し水分、運動などで気を付ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて月に8回～9回入浴している。利用者様は入浴が好きであるが、そうでない方もいるので声かけに気を使っている。利用者様は、年齢が高いので、寒い事が一番嫌がる為、暖房の設置を希望する。	毎日風呂は沸かしているため、利用者の状態に応じていつでも入浴できる環境となっている。入浴剤を希望する利用者には対応している。入浴を拒む利用者には時間を変更したり、職員を替えたり、湯船での足浴をするなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりに合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	空き時間など薬の目的等を理解し、職員同志間違いない様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活力に応じ、楽しく生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や散歩等で外出できるよう、室内での歩行、ストレッチなどに頑張っている。	利用者は職員と一緒に、天気の良い日には五感を刺激しながら事業所周辺を散歩している。職員の食材の買い出しの際に利用者を同行し、利用者の希望する買い物ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	意思疎通困難場方、歩行の困難な方等ご家族が購入して下さい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて、連絡できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付け、季節感が感じられるようにしている。季節の花などを壁に飾り、利用者様の笑顔、そして居心地の良い生活をする事ができるように心がけている。	廊下は広く、日々利用者の歩行訓練ができる環境となっている。居間は、物を置かないように整理整頓されていることから、利用者が歩きやすい環境となっている。季節感を窺えるように季節感のある飾り物が居間や廊下の壁に飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりを観察し、気の合う利用者様を席の近くにしたり、共有空間には、ソファを置いたりしている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真等を貼って居心地の良い空間を工夫している。元気のよい頃に作成したパッチワーク等居室に飾り、居心地の良い生活を心がけている。	居室にはエアコンやベッド、洗面台などが備え付けられている。利用者はそれぞれ使い慣れたものを持ち込めるようになっており、心が落ち着く環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がわかりやすくする様、貼り紙等で工夫している。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴沼の里(1)

作成日 令和元年10月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	8	身体拘束はマニュアルで行っているが、指針の整備、委員会の設置、研修が不足していた。	身体拘束適正化の為に指針の整備と委員会の設置、適正な職員研修を行うこと。	指針については整備を行った。9月の運営推進会議の場においてメンバーも同じで、身体拘束適正化委員会を行う。	6ヶ月
2	4	運営推進会議が年6回行われていない。H30年度11月とH31年度1月はインフルエンザの為に、中止した。	運営推進会議を年6回行うこと。	運営推進会議のメンバーである入居者様が体調不良の場合は、入居者様抜きで運営推進会議を行う。又、会場を施設外で行う事も視野に入れて行う。	6ヶ月
3	35	災害に備えた備蓄品の一覧表の作成が出来ていない。	災害に備えた備蓄品の一覧表を作成し、点検すること。	災害に備えた備蓄品の一覧表を作成し、毎月点検する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。